
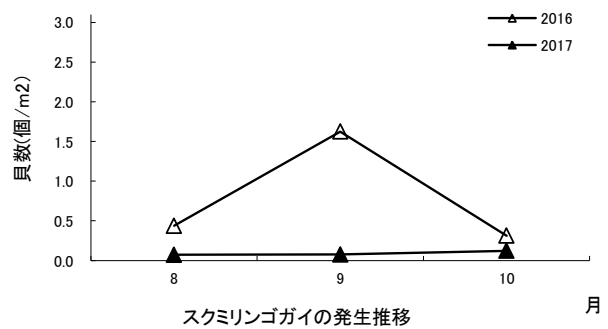
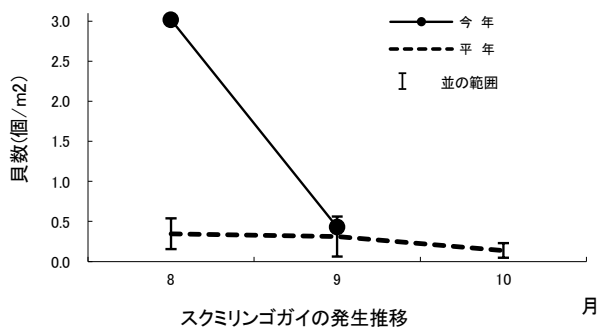


作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	① スクミリンゴガイ		
9月の発生量(現況)	並		
10月の増減傾向	↓		
増減傾向の根拠	貝数の平年の発生推移から、発生量は9月より減少すると考えられる。		


発生量の根拠(調査結果)



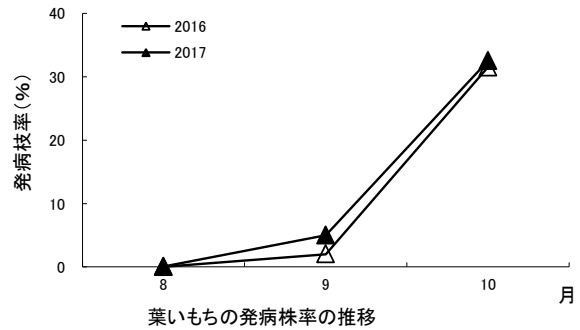
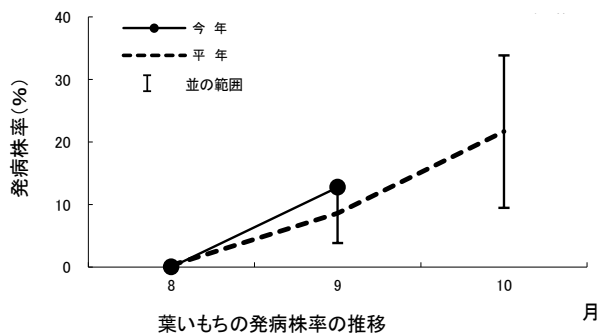
- ・ 調査地域：石垣市
- ・ 貝数(個/m²)：0.4(前年0.1、平年0.3、判定「並」)
- ・ 発生ほ場率(%)：81.3(前年50.0)

防除のポイント

- ・ 貝や卵塊は見つけ次第捕殺する。なお、捕殺時はゴム手袋を着用する。
- ・ 取水口に侵入防止網(目合6~9mm程度)を設置し、用排水路からの侵入を防ぐ。
- ・ 畦畔および用排水路周辺の雑草を除去し、産卵場所を作らない。

作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	② 葉いもち病		
9月の発生量（現況）	並		
10月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	発病株率の平年の発生推移から、9月より発生量は増加すると考えられる。		


発生量の根拠（調査結果）



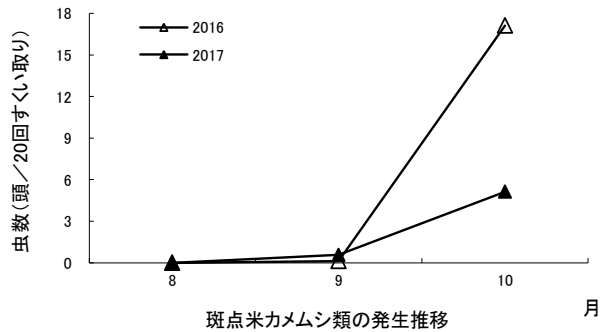
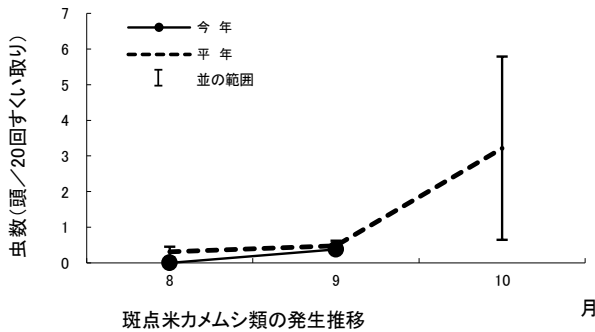
- ・ 調査地域：石垣市
- ・ 葉いもち発病株率（%）：12.8（前年5.0、平年8.6、判定「並」）
- ・ 葉いもち発生ほ場率（%）：43.8（前年37.5）

防除のポイント

- ・ 窒素肥料の過用により徒長した場合や葉色が濃い場合に発生が多いため、これらのほ場では施肥量を減らすか、ケイ酸資材の施用を行う。
- ・ 穂いもち病への移行を防ぐため、発生を確認したら速やかに薬剤防除を行う。
- ・ 発生の多い地域では、共同防除を行う。

作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	③ 斑点米カメムシ類		
9月の発生量(現況)	並		
10月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	捕虫網すくい取り虫数の平年の発生推移から、9月より発生量は増加すると考えられる。		


発生量の根拠(調査結果)



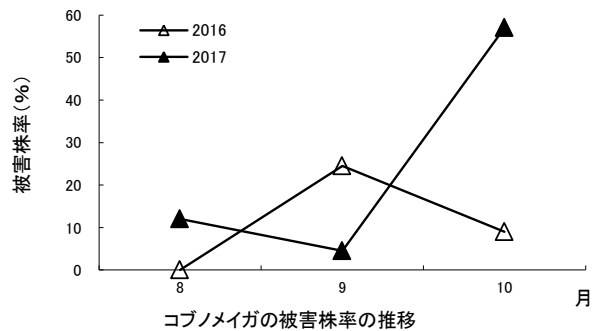
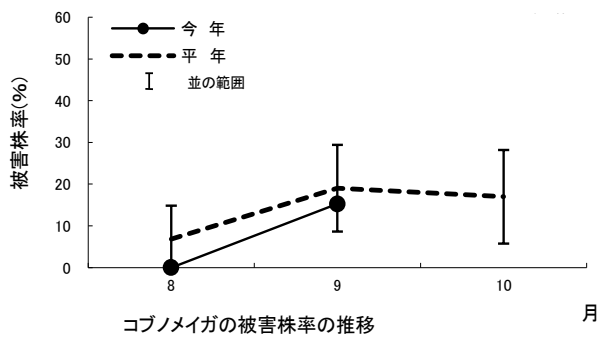
- ・ 調査地域：石垣市
- ・ 捕虫網20回すくい取り虫数(頭)：0.4(前年0.6、平年0.5、判定「並」)
- ・ 発生ほ場率(%)：25.0(前年42.9)
- ・ 発生種：アカカメムシ、アカスジホソナガカスミカメ

防除のポイント

- ・ 畔や水田周辺の雑草から出穂後に水田内に移動するため、出穂期までの定期的な除草により初期密度を低減する。
- ・ 出穂期前後の除草はカメムシ類が水田に移動するので極力控える。
- ・ 薬剤防除は穂揃期とその7~10日後の2回実施を基本とする。

作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	④ コブノメイガ		
9月の発生量（現況）	並		
10月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	被害株率の平年の発生推移から、9月と同程度の発生量と考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）



- ・ 調査地域：石垣市
- ・ 被害株率（%）：15.3（前年4.5、平年19.0、判定「並」）
- ・ 発生ほ場率（%）：62.5（前年37.5）

防除のポイント

- ・ 老齢幼虫は防除効果が劣るため、粒剤では成虫発生最盛期、粉剤及び液剤ではその約 1 週間後に薬剤防除を行う。
- ・ 発生源となる畦畔の雑草を除去する。
- ・ 窒素肥料の過用は避ける。



コブノメイガによる葉の被害